学力向上

授業評価

1　目　的

生徒を対象に実施する授業評価アンケートを分析して、授業の課題や授業改善の視点を明らかにする。

2　実施時期と方法

（1）６～７月の指導単元の終了時

「いい授業をつくるために」というマークシート形式のアンケートを行う。質問は、全教科共通の

「（生徒自身の）授業の受け方」

「（授業者の）授業の仕方」に関する項目と、

「各教科における言語活動の取組」に関する項目から成る。

（2）夏季休業中

マークシートの集計を行い、項目ごとに経年比較をして、課題や視点を明らかにする。

これを踏まえ、授業改善の取組の内容と方法を明確にするために「授業評価から授業改善へ」を検討する。

（3）分析終了後

「授業評価から授業改善へ」をもとに授業改善に取り組む。

学力調査

1　目　的

生徒の学力の実態を継続的に調査し、生徒の特性や学習指導改善の手だてを明らかにする。

2　実施時期と方法

（1）全国学力・学習状況調査

東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査

練馬区立小学校・中学校学力等調査

により、生徒の学力調査を行う。

（2）調査実施後

生徒の学力の実態を把握し、何ができて何ができなかったのか、それはなぜか等を分析し、「学力調査から授業改善へ」を検討する。

（3）分析終了後

「年間指導計画」および「授業展開や方法」の見直しに活用し、授業改善につなげる。

調査結果は、個人票として三者面談で配付し、家庭への学習に対する意識付けのために活用する。

授業・学力の実態把握

授業改善

平成 22・23 年度
―読書指導を基盤とした全教科の取組―
「定着・継承」

平成 21 年度
―学力向上に向けた授業改善の実践―
「実践・深化」

平成 19・20 年度
―生徒が主体的に取り組み、学び合いのある授業の工夫―
「発展・成果」

平成 18 年度
―生徒一人一人が学習目標に到達できるための指導の工夫―
「継続・改善」

平成 16・17 年度
―生徒一人一人が学習目標に到達できるための指導の工夫―
「開発・試行」

研究を進めるに当たっての背景

○ 生徒の学力に個人差が広がっている。
○ 学力向上に向けた質的側面として、「授業改善」が求められている。

言語活動の充実

1　目　的

言語は、知的活動（論理や思考）だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが重要である。国語科で言語活動を行う能力を培い、それを踏まえて各教科等で言語活動を充実させる取組を通して授業改善を図り、学力向上につなげる。

2　実施方法

（1）国語科では、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う。

（2）各教科等では、知的活動の基盤という言語の役割の観点から、知識・技能を活用する学習活動を充実させる。

（3）生徒の考えや意見を交流する場面等を授業に意図的に取り入れる。

（4）学び合う内容について理解を深めるため、授業の目標を明確に示す。

読解力・表現力等の向上

読書活動

1　目　的

読書活動を通して、言語に関する能力をはぐくみ、読解力を育成する。そのために、全校体制で「読書活動の充実」に取り組む。

2　実施方法

（1）朝読書：朝の10分間全校一斉に行い、感想文や紹介文を作成する。

（2）課題図書：国語科より各学年年間６冊を課す。

（3）ブックトーク：地域の図書館と連携を図り、本の紹介を実施する。

（4）中学生に薦める本：全教職員と保護者による推薦本とその理由を冊子にして、夏休み前に配布する。

（5）国語科の授業：「読書単元」を設定し、読書をテーマにした授業を実施する。

（6）読書感想文コンクール：国語科主催の校内読書感想文コンクールを実施し、優秀作品は文化発表会で生徒が発表する。

（7）道徳授業地区公開講座との連携：課題図書を題材として取り上げ、各学年読書活動と関連させて行う。